異文化と心通わせ

つくば通信 ㉕

村田　佳子

今年もいいことありますように…。

あけましておめでとうございます。

この年末年始、休暇で旅行に出かけられた方、遠くに住む親せきを迎えた方、楽しまれたことと思います。親せきの集まりを切り盛りした方は今、「ああ、ゆっくりした」という気持ちを味わっているかもしれません。集まる方々のために準備し、気遣い、何はともあれ終わった後の安堵感を込めて発する「ゆっくりした」という言葉は私が好きな庄内弁のひとつです。おもてなしの気持ちを大切にする庄内ならではの表現のような気がします。

JICA筑波で研修する方は年間1000人ほどですが、その多くは年末前に研修を終え、帰国します。そんな中、今年も日本で年を越したのは50人ほど。幸い大きな病気やけがもなく私も「ゆっくり」しています。休暇中は多くの研修生たちが東京や横浜のJICAセンターに滞在し、仲間と共に新年を迎えたようです。

太平洋の島国、キリバス共和国から来られた測量の専門家、レオさんも、この休みに初めてつくばを離れ、横浜に滞在したひとりです。見るものすべてが珍しく、楽しい休暇を過ごしたと話してくれました。新年早々、気の毒にも、唇の周りにトラブルがあり、皮膚科にご一緒しました。大事に至らなかったのが幸いです。研修生たちと診察にうかがうときにいつも感心するのは、ご自身がトラブルを抱えているのにもかかわらず、診察室を温めるジョークを放つ余裕があるということ。もちろん深刻でない場合ですが、彼もまたお医者さまに「水ぶくれの間は感染しやすいから気をつけて」と言われ「じゃあしばらく、キスはできないね」と笑いました。こんな言葉のおかげで年明け早々、私の気持ちも和みました。

そんな彼に母国での年末年始の過ごし方を聞いてみると、やはり家族や親せきで集まって過ごすのだそうです。もっともクリスマスがメーンで長めの休暇が年明けにかかるというもの。日本のような冬という季節はなく雨季と乾季、気候も28―33度ほどで、たまに「シーブリーズ」と呼ばれる海からの風が涼しさを届けてくれるのだそうです。そしてこの時期のご馳走は豚肉。島は砂地のため牧草がなく牛やヤギはいないのだそうですが、豚は育てている家庭が多く、大勢が集まるこの時期に外で火を焚き、丸焼きにして食べるのだそうです。

昨年も同じように休暇を横浜で過ごしたアフリカのマラウイの男性がいました。目的地に親せきがいるわけでも、何か用事があるわけでもなく休日に知らない土地にぶらりと出かける「観光」自体が初めてだった彼。陸地に囲まれたアフリカの大地で育った彼にとって横浜の海は感激するほどの景色だったようです。そして初めて見た観覧車や高いビル、イルミネーションなどすべてが新鮮でその一つひとつ、何度も話してくれました。普段余り感情を込めて話さない彼が熱く語ってくれた横浜の景色や、そこで感じたことを聞きながら、私は知っていたはずの横浜があらためてすてきな場所に思え、語る人で同じ場所はこんなにも違って表現できるのだと知ったものでした。今となっては日本でも多くの方々が観光を楽しむようになり「わざわざ」どこかに行く、というのは自然なことになったものの、これも経済に余裕が出て週末が休みになってから普及したことだったのでしょう。

休暇を終え、連休明けから学校、仕事という方も多いかと思います。皆様にとっていい一年になりますように。今年の年末には「いい年だっけの～」とご家族で笑えますよう心からお祈りいたします。（鶴岡市出身、JICA筑波国際センター・クリニックコーディネーター）

キリバス共和国からのレオさんと